

牧草と園藝

第十四卷・第二号

昭和二十八年五月十五日(第三種郵便物認可)
昭和四十一年二月一日(毎月一回発行)



雪印種苗株式會社
研究農場

内一〇六六

雪印種苗株式會社

牧草の病害(1)

赤クロバーの病害

上野幌育種場 兼子達夫



赤クロバー炭疽病（茎割病）

赤クロバーの開花頃発生多く、甚大な被害を与えることがある。茎・葉柄に褐色凹斑部を生じ、その部で裂開、折損、屈曲する。南方型と北方型とに分れ、前者にはケンランド、後者にはハマドリが抵抗性品種である。



赤クロバー煤点病

葉裏に黒色煤状の病斑を生じ、のち粒点となり、葉表は灰褐色斑点を呈し、著しい場合には葉が巻き上って枯死する。最近発生が目立っている。白クロバー、ラデノクロバーにも被害多い。



赤クロバー黒葉枯病

最近発生いちぢるしく、品種間差は明らかでない。黒色～褐色水浸状の斑点が生じ、拡大して紡錘形不規則長楕円形となり、周囲はやや黄化する。病斑密生して葉は黒変捲縮枯死する。